



オリーブニュース

北海道特別教区女性の会（オリーブの会）第12期 第3号

代表 近藤雅子 2014年1月10日発行

うれしきめぐみよ 愛なる主の手よ
いづこにありても われらを導く
やさしき主の手に わが身を委ねて
世の旅やすけく 歩むぞうれしき

（讚美歌 402 番）



クリスマスと新年のメッセージ.....

女性会担当牧師：坂本千歳

聖書：「民数記」9章15～23から

エジプトを脱出して旅立ったイスラエルの民。それはある意味、定住安定していた地から荒野に行くものでした。しかし、神さまは雲の柱・火の柱となって、共にいてくださることを知らせて下さいました。また強い陽を避ける雲、明るく照らす灯ともなって守って下さいました。

イスラエルの人々は主の命令・導きに従い、雲が動けばモーセの律法が書かれた板を安置している幕屋を動かしました。人の判断ではなく、行くも留まるも主の命令に依って。

みことばの中で働く聖霊。私たち一人ひとりの中に聖霊は宿っています。

迷う時、心が落ち着かない時、心の中にいて下さる聖霊の声に耳を傾けましょう。

余裕がないときほど、私の中にいる聖霊に耳を傾け委ねていきましょう。

神さまの声・聖霊の声に耳を傾けましょう。

失敗したと思う時、

動かないで神さまの計画を妨げている時、

神さまが折角用意して下さっているのに乗れないでいる時、

疑っている時もある私たち。

シンドイこともあるかもしれませんが、細やかな心遣いで、共感しながら、教区女性の会の働きを進めていきましょう。

…10月13日交流夕食会で原島博先生(ルーテル学院大学準教授)のお話を聞いて…

「私は あなたを撃ちません」～国際協力についての再考～

札幌教会 松島直子

いきなり恐い表題をつけてしまいました。でもあえて、この表題なのです。

一日神学校国際協力についての講義で、原島博先生が紹介して下さったマララ・ユスフザイさんの言葉が私の心に刻みこまれたからです。“私を撃った人が、今、私の目の前にいたとしても、私は彼を撃ちません。”マララさんはパキスタンで女性教育の権利を主張したために、タリバンに銃撃されて一命をとりとめ、今も国連をはじめ、子供の教育の権利を訴えています。

国際協力を考える時、私は今まで、自分が相手を支援する立場として考えることが多かったように思います。しかしマララさんの言葉をきいたとき、支援は国際協力の一部であり、相手を撃たない、傷つけないという決意表明も、国際協力の大事な視点であることを学びました。

なぜマララさんがそのような言葉を自信をもって言うことができたか、それは彼女が家族から深く愛され、平和とは何かを、16歳までの歩みにおいて過酷な環境のなかでも教育されたからに違いないのです。

あたりまえに教育を受け、テロリストに攻撃されることのない日本にいる私たちには想像しにくいですが、マララさんの訴えに耳を傾け、その言葉の重みを受け取ることから、私たちの国際協力への一歩がまた始まるように思いました。

それからもう一つ、注目したいことは、“学びたい”と切実に望んでいる子供たちが世界中に多くいるという事実を、講義の中であらためて確認したことです。

マララさんも、女性の会で支援するチャイルドも、学校に行きたい、医者か政治家になりたいという希望を持っています。学ぶモチベーションを見失ってしまう子供たちもいるなかで（それもまた悲しい現実ですが）、厳しい環境にも負けず学びたい子供もいるということは本当に素晴らしいことです。教育がひとを育て、国を変え、貧困の負の連鎖を断ち切っていくのです。

“自分たちの言葉の力の強さを信じましょう。私たちの言葉は世界を変えられるのです。”国際協力にかかわるものとして、私も、この場所から心のある言葉を発し、平和の種をまく働き人になりたいとあらためて考える機会となりました。

@ 交流夕食会には27名が参加しました。

会員10名、3名の道内教職と甲斐神学生
江藤直純先生、鈴木浩先生、原島博先生
「となりびと」の野口勝彦牧師
鈴木直子女性会連盟会長、浅野聖子東教区
女性会会長、東教区から石原京子元連盟会長
竹内茂子ル学院大・神学校後援会長（元連盟
会長）、道内の男性5名も特別参加でした。



お話を終わって寛ぐ原島博先生（右端）と
後援会会長の竹内姉と函館の村上兄

<女性会連盟 サバ神学生支援～マレーシア・コタキナバルにある神学校訪問プログラム>

10月 サバ神学校を訪問して

教区女性の会代表：近藤雅子

10月24～29日でサバ神学校を訪問してきました。

サバ神学校はボルネオ島北部サバ州、近年ではリゾート地として発展が著しいコタキナバルという街にあります。関西空港から5時間、時差も1時間ですから日本からも行きやすい海外です。

国の宗教はイスラムですから朝4時に始まり一日5回、モスクからコーランが高らかに鳴らされるのにはちょっと面喰いました。

初日、まず私達は女性会連盟の支援を取りまとめているBCCM（バーゼル・セントラル教会、マレーシア）の系列である教会を訪問。そこでは女性のコーラスの練習をしており、私達訪問団も歌のお返しとして、急きょ、私がピアノ伴奏をして“いつくしみ深き”を歌いました。午後からはBCCMのビショップ（理事）によるBCCMの成り立ちなどの説明がありました。もともとはスイスの宣教師がマレーシアの地に宣教に来たことから始まったのでスイスの都市である“バーゼル”の名がついていること、現在、マレーシアには24,000人のクリスチャンがいるが宣教師は600人しかおらず、まだまだ足りない状況にあるが、彼らはマレーシア国内にとどまらず、近年では近隣のインドネシアや香港はもちろん、東ヨーロッパのカザフスタンにも宣教に赴いているということでした。

そして最後に「あなた方が20年にも渡って支援をしてくれたことにとっても感謝しているし、あなたがたの行為は神様の国を築いていることなのですよ！」とおっしゃってくださいました。

サバ神学校は繁華街や風光明美なホテル群を通り過ぎ、山道のアップダウンを繰り返して進んだ山の中腹にあります。そしてこの場所がかつて日本軍の司令部があった場所でもあるのです。

北国で生まれ育った私には目にしたことがないような木々が生い茂るジャングル。約60年前、その当時の大日本帝国はこのすぐ間近の場所より真珠湾攻撃の口火を切り、大東亜共栄圏と称して東南アジアの諸国の人々に対してこの上ない苦痛を与えてしまった場所でもあるのです。そして、ただ国家に従い人間の精神までもコントロールされて連れてこられた日本の兵士の人たちも、どんな思いでこの生い茂るヤシなど見たのであろうかと思いを巡らせました。今日の平和な時代ではきれいでおだやかな海や南国の花々も、その当時ではただむなしく目に写ったかもしれません。今回、私はこのマレーシアを訪れるにあたり、ちょうど半年ほどまえ、日本でも従軍慰安婦に関することが話題にされ、サンダカンといった日本人である私が自分の国の恥ずべき歴史の一部がこの地にあることを思い、少し緊張した心持でおりました。

伝統的な音楽で卒業式は始まり、卒業生の親御さんはもちろんですが、結婚をしてから進学をする学生も多いようで、彼らの奥さんやおめかしをした子供達も出席をし、お父さんの晴れ姿を見守っているというような荘厳な中にもなごやかな雰囲気でもありました。

合唱の歌声にも強力なパワーがあり、皆、ここで学んだことへの誇りを持って巣立つ様子に、とても爽やかな中にも彼らの自信に満ちた様子がうかがい知れました。

この光景に、私は60年あまりの時を経て、ここには真の平和が訪れた“特別な場所”であるように感じました。

滞在の最後に、私達はBCCMが運営しているマレーシアの国籍を持たない子供達の為の学校を訪問しました。そこには150人ほどが通っているのですが、彼らは両親がマレーシア国籍を持っていないため、マレーシアで生まれていても国籍を取得することができないので、マレーシアの普通の学校へ通うことが出来ないのです。知識がなければ将来、職に就くこともできません。それで、この学校に通い、卒業後、一端、インドネシアなど両親の国へ行き、(違法ではありますが)お金を払ってパスポートを取得し、再度、マレーシアへ戻り、働くということが可能になるということでした。教育の内容としては主要な教科はもちろんですがモラルや祈ることも教えています。決して豊かとは言えない環境にあるのですが、子ども達の表情は明るくフレンドリーでした。

毎日、朝食からサバ神学校の宣教師の先生や現地の女性会の方々との歓談など、夜までびっしりのスケジュールで自由時間はほとんどなくあっという間に過ぎた5日間でした。

でも今回サバを訪問して、私達一人一人が行っていることは、ほんの些細なことではありますが、私達が想像できないほど様々に広がっていることを知りました。

そして、それらはまだまだ進行形であること。支援を続けることによってビジョンが広がり、繋がりを持つことで私達の見地も大いに豊かになります。

そのことは未来にとっても平和を維持することに繋がるのではないかとの思いで帰国の途に着きました。



東北大震災の被災地の方々を覚えて 私たちの出来ること

札幌教会 竹原真理子 (めばえ幼稚園園長)

10月4日(金)、東北大震災の被災地の方々が作られた「つるし雛」がめばえ幼稚園にやってきました。ルーテル教会救済支援の中の「生きがい支援」として制作されてきたと聞きました。

「被災地を忘れない、忘れていない」をテーマに全国を巡回してきた「つるし雛」がとうとう北海道に上陸、そしてめばえ幼稚園のホールに吊るされたのです。

「つるし雛」がここに来るまでに、全国の多くの人々の祈りが込められていることを聞きました。

「きれい、可愛い」と眺めているだけではなく、あの大災害のことをしっかりと子ども達やお母さん達に伝えていかなければならないと思いました。

子ども達には、ホールに集まり「つるし雛」を見ながら大震災のこと又どんな人がどんな思いでこれを作ったのかを話しました。お母さん達には前のお便りでも、東北大震災で子どもを失くしたお母さん達の絵本「ひまわりのおか」の紹介をしていました。懇談会の中では、実際に「ひまわりのおか」を読み、ともに子どもを持つ親として、いのちの大切さそして子どもに寄せるお母さんの愛情の深さに涙しました。そして実際に自分達に出来ることとして、布草履の協力をお願いしました。



「一日神学校」の前日の教会学校ではルーテル教会の派遣牧師である野口先生より、スライドを見ながら被災地の現状や支援の様子等を聞きました。話を聞いてますます子ども達に何か出来ることはないだろうかと考えていたところ、「一日神学校」で札幌北礼拝堂の京谷さんから良いことを教えて頂きました。それはベルマークで震災被災校を支援するものでした。さっそく、幼稚園でも布

草履材料とベルマークを集めることにしました。(福島県南相馬市 原町第一小学校を支援)

玄関を入ったらすぐ前に、布草履材料入れと子ども達が自分達で作ったベルマーク入れを用意しました。次の日から、子ども達はせつせとベルマークを持ってくるようになりました。

お母さん達も布草履材料を持って来てくれています。又お便りでも「誰かのために何かをする優しい心が育まれますように」と書いて、被災者の方に寄せて下さる想いを感じます。

今、幼稚園ではクリスマスの準備をしています。廊下にはクリスマスの飾りと一緒に布草履材料入れとベルマーク入れが置かれています。クリスマス前には例年家に献金袋を持ちかえます。

子ども達は神さまに喜ばれる思いを形にしておささげします。今年はその献金と同じ様に、その気持ちを東北大震災の被災地の方々のために、布草履材料・ベルマーク集めをしておささげしたいと思います。

*追記:年末、札幌教会とめばえ幼稚園から布草履材料Tシャツを段ボール2箱「ルーテルとなりびと」へ、ベルマークも札幌圏で合計2万円分にもなって送ることが出来ました。

10月13日「1日神学校」の前日は女性の会の夕食交流会でした…………… 道庁近くにあるビルの地下、お洒落な松尾ジンギスカンの店「まつじん」で 和気あいあい…参加した方々を代表してご感想を……………

帯広教会：岡田ひとみ

見知った顔、初めての顔、同じ教区内にいてもなかなかお会いできない方々なので楽しみに出席いたしました。また、神学校の先生方ともご一緒出来ましたこと嬉しかったです。みんな盛り上ってましたね！しゃべって、食べて飲んで、楽しいひとときでした。私は美味しそうなものを目の前にすると我慢できないほうなので、充分満足致しました。広い北海道です。この様な形で交わりの時を作っていただいたことを感謝致します。ありがとうございました。

函館教会：大塚陽子

2010年函館教会へ転会后、札幌での女性会行事3回目となりました。過去2回は学習中心でしたから、全道の姉妹たちと食事をしながら交わるのは今回が初めてでした。座席を指定され向かいの席になった札幌教会の姉妹二人と帯広教会の姉妹を中心に、先生のお話が済んだ後の残り1時間半、前半はひたすら肉や野菜などを焼き、後半は名乗りもせずに行ったことに気づき簡単な自己紹介をし、食べながら青年期の子どものことや、地域の高校の情報など話し合っていると、あっというまにお開きの時間になっていました。一日神学校の準備等で多忙な中、日常的に交わる機会の無い姉妹たちと食事を共にするという貴重な時間を企画して下さい、有難うございました。去年は家族の看病が続き、一年振りに旅先での交流会に参加できたことは、わたしにとって何とも感慨深い時となりました。



函館「野の花の会」

12月8日開催のゴスペル クリスマスコンサートとジョイントでのミニバザーに向け準備に大わらわでした。手作りのクリスマスカードや手芸品、中古衣料や雑貨なども集まりました。売上は昨年と同じ、「釜ヶ崎 喜望の家」に、毛布や防寒着などと共に送りました。（須藤記）

帯広「すずらんの会」

豆の小分け、発送作業のお手伝いも終わることが出来、感謝です。次は今年目標である癌患者のためのタオル帽子作成に本格的に集まって作業開始。これまで試作品を作り、会員のお知り合いの方に試していただき、タオルの厚さ、素材等は何が良いかがわかりました。12月中に50個を目標に皆で作成しているところです。11/27には池田でも作り方を共にして皆で出来ることを1人でも多くの方と一緒に工夫しています。（有働記）

新札幌「ハナミズキの会」

教会の歩みに合わせてそれぞれが奉仕の役割を担っています。聖壇関係、愛餐関係、そしてオープンチャーチ、おにぎり食堂、うどん食堂もなごやかな時間です。教区女性の会の皆さんと祈りを合わせて、CFJのエライサちゃんを皆さんに紹介してクリスマスカードを作成、被災地の救援活動の布草履用Tシャツも教会の皆さんに呼び掛けて送ることが出来ました。この様なつながりも、主にある交わりと感謝しています。（小川記）

札幌教会婦人会(札幌礼拝堂)

2013年度も神さまの大きな愛のみ手に守られて活動を続けることが出来ました。この1年間、常に祈りに覚え心から離れることのなかったのは2014年「世界祈禱日」のことでした。去る1997年「世界祈禱日」の集会は日本福音ルーテル札幌教会が当番教会でしたから、今回17年振りに私どもの教会が当番教会になります。私どもは300名近い出席者を収容できる礼拝堂を持ちませんので、広い礼拝堂を使用させて頂く場が与えられるように婦人会の例会ごとに祈ってまいりました。祈りがかなって日本キリスト教会札幌北一条教会の御厚意により礼拝堂を会場としてお借りすることが出来ました。3月7日（金）開催の世界祈禱日はエジプトからのメッセージ「砂漠を流れる水のように」の式文に基づいて守られます。今まで以上に、日本福音ルーテル札幌教会の者が心一つにして、このエキュメニカルな（超教派の）集会のために祈り、責任を果たすことが出来るために努力を重ねたいと思います。（栗原記）



これからの予定

- 1/14(火) 10時 第4回役員会 13時半 会計監査 (札幌教会ルーテル会館)
- 1/15 期限内で連盟役員会へ9月以降の活動報告・2014年活動計画・連盟予算関連他提案事項を提出。
- * 1/28~29 連盟役員会
- 2/12(水) 14時~17時 教区女性の会 合同役員会=交流会として (札幌教会ルーテル会館)
- ①連盟小役員会「次期総大会について」の具体的検討
- ②教区女性の会規約の見直し案と内規案 (慶弔規程・旅費規程など)
- 3月 東教区との合同小委員会 (近藤代表出席)

編集後記:皆さんの溢れんばかりの思いを盛り込んで発行できる幸せ・・・mo記